

胃の開腹手術を受けられる患者さんへ

(No. 1)

患者氏名:

主治医:

担当医:

受持看護師:

項目	入院当日～手術前々日	手術前日	手術当日(手術前)	手術当日(手術後)	手術後1日目	手術後2日目	手術後3日目	手術後4日目	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 手術について理解し、同意している。 手術の準備ができています。 			<ul style="list-style-type: none"> 手術後出血がない(創部・お腹の管の排泄液に異常がない) 麻酔から覚醒している 安静臥床による皮膚トラブルがおきない 血栓ができない 創痛コントロールができています 		<ul style="list-style-type: none"> 創部・お腹の管の排泄液に異常がない 			
治療・薬剤(点滴・内服)・処置・リハビリ	 <p>呼吸訓練を行います 入院前に内服していた薬があればお知らせください。</p>	<p>腹部の毛剃り、お臍の処置を行います。 ()時に下剤の内服があります。 ()時に胃薬・安定剤の内服があります。いつも内服している薬については、別途お知らせします。</p>	<p>()時に薬の内服と痛み止めのテープを貼ります。 いつも内服している薬については、別途お知らせします。 ()時に洗腸をします。 ()時に手術の開始時間は()時頃です</p>	<p>手術中、鼻より管(胃管)とお腹に管が入っています 手術後より酸素マスクを着用します(翌朝まで) 痰が出にくい場合は吸引します。 背中に痛み止めのチューブが入っています。 心電図・酸素モニター装着しています。 血圧を観察するために動脈に管が入っています。 点滴をしています</p>	<p>胃管を抜去します 適宜ガーゼ交換を行います(医師とともに創部の観察をします) 痛みがある場合は痛み止めを使用します。 歩行できれば弾性ストッキングを脱ぎます。 動脈の管を医師が抜きます(止血のテープを貼ります。2時間以内にはずします。)</p>		<p>背中への痛みどめの管は薬剤が終了したら抜きます</p> 		
検査				採血があります	朝採血とレントゲン検査があります		採血・レントゲンの検査があります	透視検査があります	
活動・安静度		自由に動くことができます		ICU(集中治療室)に入ります ベッド上で安静となります 2時間毎に体の向きをかえます 足にマッサージの器械をつけます	ICU(集中治療室)から病室へ帰ります(朝より車いすに座る練習をします。足のマッサージの器械をはずします) 歩行できます(最初の歩行は付き添います)	自由に動くことができます			
食事		()時から絶水、()時から絶食です	朝から絶飲食です					透視の検査を行い、通過状態がよければ水分摂取ができます	
清潔	入浴	臍の処置と毛剃りを行った後、入浴します	手術室にて手術着に更衣をします。	歯磨き・うがいをします	ICU(集中治療室)でお体拭きと陰部を洗います 	温かいタオルでお体を拭きます。洗髪のお手伝いをします。おしやってください。			
排泄			洗腸後、排便があればお知らせください。	手術室で尿の管を入れます 尿量を測定します		痛み止めの管が抜け歩行が安定したら尿の管を抜きます		造影剤の影響で水様便ができることがあります	
患者様及びご家族への説明 栄養指導 服薬指導	主治医から入院治療計画・手術の説明があります 看護師から入院生活と手術についての説明をします	手術に必要な物品や書類(入院診療計画書・各同意書)がそろっているか確認します 麻酔科医の診察があります ICU(集中治療室)・手術室看護師の手術前訪問があります	手術開始から手術終了までご家族には控室でお待ちいただく必要があります。 手術時間は前後の手術の関係上変更することがありますが、その都度お知らせします。	手術後、主治医からご家族に手術の結果の説明があります 麻酔から覚めたら深呼吸をしましょう 痛みが強い場合は痛み止めを使います 手術後24時間以内は状態変化しやすいので1-2時間毎に状態観察します	早期に歩いたほうが回復が早まります(座ったり歩く練習の際にめまいや気分不良があればおしえてください) 				

注1 病名等は、現時点で考えられるものであり、今後検査を進めていくに従って変わることがあります。

注2 入院期間については現時点で予測されるものです。

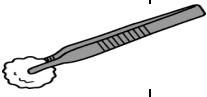




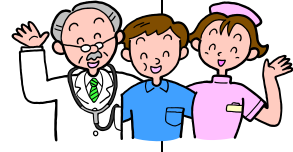
胃の開腹手術を受けられる患者さんへ (No. 2)

患者氏名:

主治医:

担当医:

受持看護師:

月日	手術5日目	手術6日目~7日目	手術後8日目~9日目	手術後10日目~退院	
項目	手術5日目	手術6日目~7日目	手術後8日目~9日目	手術後10日目~退院	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 創痛のコントロールができています 創部・お腹の管の排液に異常がない 経口摂取ができる 	<ul style="list-style-type: none"> お腹の管の抜去と抜糸ができています 	<ul style="list-style-type: none"> お腹の管の抜去と抜糸ができています 退院後の生活について理解ができています。 	<ul style="list-style-type: none"> 全粥または常食の摂取ができています 発熱・腹痛がない <p style="text-align: right;">退院基準</p>	
治療・薬剤 (点滴・内服) ・処置 ・リハビリ	適宜、ガーゼ交換を行います(医師とともに創部の観察をします) 点滴をしています	 お腹の管を抜きます	半分創部の抜糸をします 残りの抜糸をします		
検査		採血・レントゲンの検査があります			
活動・安静度	自由に動くことができます				
食事	昼から重湯が開始になります	三分粥(術後分割食)になります 分割食は、通常の食事に追加して10時、15時、20時になります。	五分粥(術後分割食)になります	全粥(術後分割食)になります	米飯(術後分割食)になります
清潔	お身体を拭きます		シャワー浴ができます	入浴ができます	
排泄	本日で尿量測定終了します。				
患者様及びご家族への説明 栄養指導 服薬指導	痛みが強い場合は痛み止めを使います。どんどん歩きましょう。 看護師より退院に向けて「胃の手術を受けられた患者さまへ」のパンフレットを使用して説明します。 栄養士から入院中の食事についての説明があります。胃のつかえ感や胸やけ、冷や汗等の症状が出現したらお知らせください。				栄養士から退院後の食事についての説明があります。 退院時に次回の外来予約、退院時処方をお渡しします

※病名等は、現時点で考えられるものであり、今後検査を進めていくに従って変わることがあります。
 ※入院期間については現時点で予測されるものです。

